

第34回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会山口県予選会

H15(2003)年11月8日(土)・9日(日)・15日(土) やまぐちリフレッシュパーク 他

男子準決勝

山口	79	18 - 21 17 - 16 26 - 13 18 - 13	63	岩国工
----	----	--	----	-----

山口 #4飯田 #15本間 #16隅廣 #17清水 #18大堀

岩国工業 #4佐原 #5宮本 #6大城戸 #7寺家村 #8田村

両者マンツーマンでスタート岩工#5宮本のシュートで先制。残り6分で岩工チームファール4つになり3-2のゾーン切り替える。その後シュートの決めあいで1Q 21-18岩工リードで終える。2Q山口#16隅廣、#17清水の連続3Pで一気に10点差まで広げるが残り4分から山口のターンオーバーから速攻などで10点差をひっくり返し前半37-35岩工2点リードで終える。

後半#16隅廣のシュートで始まる。山口のディフェンスがききはじめ、岩工はシュートまでいけない。山口はハーフコートオフェンスで得点を重ね61-50山口リードで終える。4Q岩工はミスが続き、山口が点差を広げる。岩工#5宮本の連続得点で食い下がるが、山口#18大堀の3Pなどの得点で点差は縮まらず、最後は山口#16隅廣のゲームコントロールで79-63試合終了。山口の大差で終わると思ったが、岩工が最後までついていった試合内容であった。しかし山口が下馬評どおり決勝進出を決めた。(主審:高木直樹 副審:渡辺博史)

男子準決勝

宇部工	57	17 - 15 11 - 11 13 - 12 16 - 23	61	豊浦
-----	----	--	----	----

宇部工業 #4高東 #5明末 #6入江 #7川本 #10京免

豊浦 #4古川 #5魚谷 #9田中 #13藤村 #14高山

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。両チームともディフェンスが厳しく、攻めあぐね最後の外角シュートもなかなか決まらない。宇部工は#7川本#10京免らの3P、豊浦はインサイド#9田中を使おうとするが宇部工#5明末が頑張り点に結びつかない。1Q 17-15宇部工2点リード。2Qも宇部工#10京免のドライブや3P、豊浦#14野口の3P、#9田中のポストプレイなどで頑張るが、どちらもディフェンスを崩せず2Qは11-11前半28-26と静かな展開。3Qも豊浦#4古川がジャンプシュート・ドライブ・3Pと頑張るが、宇部工もリバウンドからの速攻や#4高東のジャンプシュートなどで応戦41-38と宇部工3点リードで3Qを終える。4Q宇部工は#6入江から#5明末へのハイローなど#5明末がゴール下で連続得点しリードを広げるが、残り3分豊浦は#5魚谷の連続3Pで45-45と同点に追いつき宇部工はたまたまCTO。しかし豊浦はさらにターンオーバーからドライブやジャンプシュートを確実に決め残り1分30秒で10点リード。宇部工は残り1分#7川本#5明末の連続3Pを決め、ファールゲームに持ち込み最後の粘りを見せるが、4点差は縮まらず結局57-61で豊浦が決勝進出を決めた。(主審:小池正夫 副審:叶太)

男子決勝

山口	73	17 - 13 19 - 24 16 - 20 21 - 14	71	豊浦
----	----	--	----	----

山口 #4飯田 #15本間 #16隅廣 #17清水 #18大堀

豊浦 #4古川 #5魚谷 #9田中 #13藤村 #14高山

両チームともマンツーマンディフェンス。山口#16のドライブでスタート。すぐに豊浦も反撃し2-2の同点。お互い動きがたくシュートが決まらない。2分30秒、山口#18のバスケットカウント、1スローも決まり5-2とリード。すぐさま豊浦#14の3Pで同点。豊浦はディフェンスリバウンドが取れず苦しむが、山口も思うようにシュートが決まらず17-13の山口リードで終了。

2Q開始早々、豊浦#5#14が3ファールとなる苦しい展開。山口#17#18で24-16と引き離しにかかる。ここから豊浦は#9のゴール下、#4の3Pを含む連続シュートで24-23と追いつく。ここで山口#18痛恨のアンスポーツマンライクファール。豊浦#4が2スローを決め、さらにマイボールのスローインから#4がシュートを決め、24-27と豊浦がリードを奪う。豊浦#4#9で得点を伸ばしてゆく。一方山口も#4の3P、#16のドライブなどで対抗する。36-37豊浦リードで終了。

3Q、豊浦#12#13の3P、#9のゴール下で10点差をつける。山口は#16の3Pなどで何とかつなぎ、52-57豊浦リードで終了。

4Q、開始直後山口#17のシュート、#18の3Pで57-57の同点とする。対する豊浦も#13の3Pで57-60とリードする。その後一進一退の攻防が続き、残り5分で61-62と豊浦リード。ここで、山口タイムアウト。再開後63-62と逆転。豊浦も#9のゴール下で63-64と譲らない。残り2分50秒、豊浦#5がオフェンスリバウンドを押し込み、63-66。さらに、#4のシュートで63-68と5点リードする。山口は3P不調の#17清水がここからドライブなどの連続シュートで69-68と再逆転。残り1分10秒、豊浦タイムアウト。残り51秒、豊浦#4のバスケットカウントで69-70。山口も#18のゴール下で71-70。残り25秒、豊浦2回目のタイムアウト。豊浦#5のドライブに対し山口ファールで2スロー。残りは9秒1。1投目が落ち2投目を決めて71-71の同点。山口スローインで再開。残り3秒5、山口2回目のタイムアウト。エンドスローインフォーメーションから山口#18のシュートが決まり73-71。山口が劇的な勝利を飾った。(主審:松本隆志 副審:川武 修)

第34回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会山口県予選会

H15(2003)年11月8日(土)・9日(日)・15日(土) やまぐちリフレッシュパーク 他

女子準決勝

誠英	79	21 - 4 23 - 10 20 - 14 15 - 13	41	岩国商
----	----	---	----	-----

誠英 #4植田 #5濱本 #6兼国 #7内田 #9高崎
岩国商 #4川本 #5豊島 #6鳥越 #8江見 #9井下

誠英はハーフマンツー、岩商は1-2-2のゾーンを敷く。誠英は岩商のゾーンに対して外角が当たらないものの、厳しいディフェンスからのブレイクで得点重ねていく。岩商はゾーンが出来たときには良いもののオフENSEのミスでゾーンが出来ないうちに得点を許してしまい、点差は開く一方となり、前半は44-14と誠英の大量リードで終了する。

後半に入っても、前半と変わらず、岩国商はオフENSEのミスから得点を相手に許してしまう。それにプラスして誠英は#7の外角が当たりだし、点差は開くばかりとなる。3Q残り3分となったところで誠英は全員をメンバーチェンジ。64-28で3Q終了。4Qの誠英はメンバーを落としてスタートしたため、互角の戦いをするも、時すでに遅く、79-41誠英が快勝し、決勝に駒を進めた。(主審:奥野 忠 副審:高部貴透)

女子準決勝

慶進	45	7 - 13 13 - 21 16 - 20 9 - 32	86	徳山商
----	----	--	----	-----

慶進 #5田丸 #9山本 #11岩男 #13松本 #15中津
徳山商業 #4池森 #5土井 #7秋本 #8角田 #9小森

両チーム、ディフェンスはマンツーマンでスタート。

1Q、徳山商業は#5の1ON1を中心に13-7とリードする。

2Q、慶進はディフェンスを2-1-2に変え、反撃を試みるが、徳山商業は3Pを中心に、逆に34-20とリードを広げて前半終了。

3Qに入り、立ち上がり慶進が#15#13のインサイドで34-24と差を詰めるが、徳山商業も堅いディフェンスとバランスの良いオフENSEで着実に得点差をつける。結局、地力に勝る徳山商業が83-45で慶進を下し、決勝進出を決めた。(主審:多賀谷 豊 副審:河村正夫)

女子決勝

誠英	69	19 - 10 15 - 13 15 - 12 20 - 15	50	徳山商
----	----	--	----	-----

誠英 #4植田 #5濱本 #6兼国 #7内田 #9高崎
徳山商業 #4池森 #5土井 #7秋本 #8角田 #9小森

誠英オールコートマンツーマン、徳商はハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。誠英#5のジャンプシュートで先制するが、徳商は#9がファウルをもらい、フリースローで入れ返す。その後一進一退の攻防が続くが、残り2分誠英#4の3Pが決まり6点差になったところで徳商がタイムアウト。しかし、その後も徳商はリズムをつかめず、10-19で1Q終了。2Q開始1分過ぎから両チームDefをがんばり、両チーム得点することができない。均衡を破ったのが徳商#4、しかし誠英もすぐ入れ返す。ここで徳商はボール運びでミスを連続、誠英に連続ポイントを許し、たまたまタイムアウト。それから徳商は追い上げを見せるが誠英も踏ん張り23-39で2Q終了。

3Q前半同様両チームマンツーマンディフェンスでスタート。徳商は#5を中心に攻め、流れをつかむ。それに対して誠英はつまらないミスが続き、シュートも単発になりリズムをつかめない。徳商は一時6点差まで追い上げるが、残り3分で徳商#5が4つ目のファウルをしてしまい交代。それから流れは逆に誠英に傾き、連続得点。35-49で終了。4Q徳商もがんばりを見せるが点差は縮まらず、時間が流れていく。徳商は最後ファウルゲームにもっていくが誠英は確実にフリースローを確実に決めていく。50-69で誠英が13年連続14回目の優勝を手にした。(主審:松本 理 副審:有澤重行)